

ニューズレター 創刊号

大阪学院大学外国語学部

2006年4月4日発行

中国に学ぶ

塩山恵さん（英語学科 2001 年卒業、北京語言大学 2 年在学中）

新しい春の訪れとともに、新しい生活の始まりに胸を膨らませていらっしやることと思います。みなさんご入学おめでとうございます。

大学時代の私は、人見知りの性格を克服したいという一心で、パソコンのインストラクター、英語劇、上海への3週間単独旅行、カナダへの短期留学など他にもいろんなことに挑戦しました。中でも一番印象深いのは、英語スピーチコンテストの参加です。練習を重ね本番に臨みましたが、わずかの差で4位に終わりました。悔しさのあまり、大学生にもなって、人目をはばからず声を張り上げて泣きました。しかしひとつのことにそこまで一生懸命になれたことが、今の心の支えになっていることは言うまでもありません。

大学生活は今までとは違い、自由であるがゆえに、自分から求めて動かないと何も始まりません。自分で土俵に上がらない限り、試合にさえも参加できません。他人から一目置かれたいと思う反面、ミスを恐れ行動に移せないことが多々あると思います。そんなとき私は、あの偉大なイチロー選手でさえも、打率が4割に届かないのだから、10回のうち4回成功すればすごい事だと自分を励ましています。また人は負け試合から学ぶほうが多いとも思います。試合に勝つとうれしさにかまけて、ミスも反省せず、時には気づかないふりをしてしまいます。試合に負けたときは、「どこが悪かったのだろう」と自らを省みることで次に行かせる糸口をつかめると思います。高く飛ぶためには、長い助走が必要です。

現在、私はまだ長い助走中です。というのは中国で2度目の大学生活を送っているからです。22歳、大学4年生の夏休みに3日間だけ訪れた中国が忘れ

られず「中国に留学したい」というのが、私の夢のひとつでもありました。3年の会社勤めで得た経験と資金を手にも2年前こちらにやってきました。中国語の先生になって、日本人にもっと中国のことを紹介したい。そして中国と日本の架け橋になりたい、日中関係を改善したいと思い、今は中国語の教育学部に所属をしています。私も一大学生としてみなさんがライバルです。みなさんのパワーに負けぬよう、一日一日を大切に過ごしていきたいです。

最後にみなさんがこの大学生活で、夢中になれる何かに出会えることを心から願っています。また今までずっと私を支えてくれた言葉をもってお祝いの言葉に換えさせていただきたいと思います。

—たゆまざる 歩みおそろし かたつむり—

(シオヤマメグミ)

日本を飛び出して

—アメリカの博士課程留学記—

青木香代子さん（英語学科 2002 年卒業、現在サンフランシスコ大学大学院博士課程在籍[多文化教育専攻]）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私も、皆さんと同じように外国語学部を選び、「いつかは留学したい」という夢を持っていました。きっかけは、大学1年生の春休みに行ったハワイ大学語学研修。楽しい思い出はいっぱいできましたが、英語を学ぶだけではもの足りず、「今度は、アメリカ人と机を並べて勉強してみたい」と思うようになりました。その後、先生に交換留学を勧められて、2年生の夏から本格的に TOEFL(留学に必要な英語のテスト)の勉強を始めました。初めはペーパーで460点と散々な結果でしたが、あきらめずに勉強を続けるうち、交換留学に必要な点数以上の550点を取ることができ、セント・トーマス大学に留学が決まりました。

最初は授業についていけなかったり、宿題が終わらなくて友達と夜更けまで勉強したり、苦労もありましたが、半年ほどたつと次第に慣れてきて、授業で少しずつ発言できるようになりました。留学期間も半年延長し、オフ・キャンパスで学外の生徒と一緒に学び、地元の小学校でインターンも経験しまし

た。

現在は、サンフランシスコの大学院で、多文化教育を専攻しています。多文化教育は様々な文化を持つ子供たちを対象にした包括的なカリキュラムや教育方法を行う教育のことで、アメリカに限らず、日本を含め世界各国の移民やマイノリティの教育を主に研究しています。授業のほかには、日本語のチューター(補助指導)や、日本政治研究の教授の翻訳アシスタントをしています。サンフランシスコの街も多文化で、刺激を受けながら毎日過ごしています。

時々、(私のような子が)留学しているとは思えない、と知り合いの人から言われます。昔からおとなしい性格だったので、まさか私が本当に外国に行って一人で生活するとは思っていませんでした。でも、もしあの時、家族の勧めで語学研修に行っていなかったら留学は実現しなかったらしく、私を本気で叱咤激励してくださった先生がいなかったら途中であきらめていたかもしれません。留学が決まってから気づいたのは、みんな留学したいと思っているのに、本気で勉強をする人は少ないということでした。でももし背中を押してくれる人がいたら、もっと多くの学友たちが留学に踏み切ったのではないかと思うのです。「できたらいいな」と思っている皆さん、それを「やってやるぞ」に変えてください。今、あなたの隣に座っている学友たちと一緒に切磋琢磨して、英語を磨き、日本を飛び出してみてください。きっと想像を超える経験があなたを待っていることでしょう。

(International and Multicultural Education, School of Education, University of San Francisco)

2001年8月～2002年5月、ミネソタ州セント・トーマス大学交換留学、2002年12月、留学延長期間を終えて帰国

2003年8月～サンフランシスコ大学大学院、現在 Doctoral Program(Ed. D) に在籍

(アオキカヨコ)

新入生の皆さん大阪学院大学へようこそ

中村愛美さん(英語学科 2004年卒業、大阪学院大学職員)

外国語学部ではこんなことが学べます

- ・ 文法中心の高校英語では詳しく学べなかった発音など『音声学』として一から詳しく学べます
- ・ 英語のなりたち、歴史、どうやって英語という言語が出来たのか
- ・ 英語で学ぶ社会情勢
- ・ イギリス・アメリカの文学や文化、社会、
- ・ 魅力的なスピーチの作り方、発表の方法

など様々な授業を受け ることが出来ます！！

☆将来、『外食産業』・『ホテル業界』・『航空業界』などのホスピタリティー産業への就職を目指す方をサポートする体制も整えています。

☆一歩入れば日本語禁止！！英会話学校へ行かなくても、楽しみながら英語力をつけることが出来る。そんな施設(I-chat ラウンジ)があります。そこでは常時、ネイティブスピーカーの先生がいらっしゃいます。

自己紹介

2001年に外国語学部英語学科に入学し、現在大学で事務職の仕事をしています。在学時は、上でも紹介したような科目(英語史・英語音声学・カレントイングリッシュ・ホスピタリティーコース聴講)や英語の特修クラスなど自分のレベルアップを目指して、いろいろな事にチャレンジしました。

課外活動では、ラグビー部に入り4年間マネージャーをしました。クラブ活動をすることで、たくさんの人に出会い大学生活の4年間を有意義に過ごすことが出来ました。内容の濃い4年間にするために

も、クラブ、サークルに所属するなり何か打ち込めるものがあると良いと思います。

最後に、大阪学院大学は、頑張ろう！という意欲ある学生をサポートしてくれる様々な授業、施設、先生方がそろっています。自分ですすんでレベルアップのチャンスを手にしましょ！

(ナカムラマナミ)

「何のための英語か」を考える

西上真粧さん（英語学科 2006年卒業）

わたしが大阪学院大学に入学したのは今から4年前の2002年。英語が大好きでとにかく英語が話せるようになりたいとただひたすら思っていた。もちろん留学することも大きな目標で、そのために努力を惜しむことはなかった。そのかいあって交換留学生としてヴェクショー大学で勉強するチャンスを得た。大阪学院大学で交換留学生として海外の大学に留学するのはTOEFLの点数、人数制限、奨学金をいただくわけだからやはり簡単なことではない。よって、多くの人が交換留学を諦め、夏休み中に海外の語学学校に通ったり、語学研修を受けたりする。より多くのお金を払って海外で英語を学ぶことは容易である。より少ないお金、より長い期間、より多くの経験をすることは難しい。しかし、その分人生をより豊かなものにする。スウェーデンに留学し、わたしが気づいたことは、「英語は手段であって目的ではない」ということだ。ナカミがあつてこそ生かされる英語なのだ。あなたたちには「ナカミを充実させること」と手段である「英語を磨く努力」を惜しまないでほしい。ナカミを充実させるのは簡単なことで、本をよく読み、テレビ、インターネットなどで情報収集をすることである。さらに、外に出て多くの人と出会うことだ。これらのことがナカミの充実につながっているのだ。楽しくあることが基本姿勢である。努力を惜しまないということは大変でつらいことのように聞こえるが、決してそうではない。楽しいと感じているときのほうが吸収率は高いのだ。

スウェーデンに留学したことで自分の考え方、価値観、人生が大きく変わった。単純なことのように思えるが、日本の常識は世界の常識ではないということを知ったのもスウェーデンでの生活の中であ

る。外から日本を見ることは非常に重要なことである。

あなたたちの大学生活は始まったばかりで時間がたくさんある。時間がたくさんあるときほどより多くのチャンスが転がっている。大学は自ら学ぶ場所だ。先生と仲良くする、CDのようないい発音で英語を話す、一生懸命取り組むことを恥じる場所ではない。むしろ自ら学ぶ姿勢を持ち合わせていないほうが恥ずかしいのだ。4年間かけているんなことにチャレンジし、充実した日々を過ごされることを心から願っています。

入学おめでとう。

(ニシガミマアサ)

編集後記

「ニューズレター」創刊号をお届けします。大阪学院大学外国語学部は1979年以来4半世紀の間卒業生を世に送り出してきました。大学在学中に英語とドイツ語を身につけるだけでなく、幅広い教養と思考力、さらには創造力を養った先輩たちは社会の各方面で活躍しています。その活躍の様子を後輩に当たる皆さんにお伝えしようというのが、この「ニューズレター」発刊の第一の目的です。ここに掲載された5編の「ニュース」は先輩からの生の声です。後輩に贈る励ましの言葉です。行間から聞こえてきませんか、「在学中に精一杯勉強して、卒業後に充実した毎日を送りましょう」というエールが。たとえ小さくても、ここに載せられたメッセージは皆さんの将来に大きな役割を果たすことになるかも知れません。この「ニューズレター」は生まれたばかりでまだ名前が付いていません。性格にぴったりの名前を募集中です。最後になりましたが、寄稿してくれた卒業生の皆さんにお礼を申し上げます。皆さんの活躍に刺激を受けたたくさん後輩が後に続くことでしょう。

「ニューズレター」創刊号

発行 2006年4月4日

発行者 大阪学院大学外国語学部

発行者住所 〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36-1

(電話)+81 66381-8434

(URL) <http://www.osaka-gu.ac.jp>